

建築大工1級技能検定

23人が課題に挑戦

平成19年度の建築大工1級技能検定実技試験(鹿児島高等技術専門校で)あり、23人が参加し、合格を目指して課題の「小屋組み」製作に取り組んだ。



組み立て工程の作業に取り組む検定参加者
＝鹿児島市の鹿児島高等技術専門校で

課題は原寸図作成の後、木造りを行い墨入れ、木材加工し、最後の組み立てまでの工程を制限時間6時間以内に終了することになっている。時間延長は30分まで許されるが、減点対象となるため、効率的に作業を進めようとする参加者が多かった。真剣に取り組んでいた。技能士資格がないと責任者として現場に入れないため、親方が若手2人を連れ受検するなど、会社ぐるみの参加もあった。同日は28人が受験予定だったが5人が欠席。来月10日は、木造建築に必要な瓦や左官、木材等の知識に関する学科試験が控えている。

また、同2級検定は16日に14人、同3級は2月

祁答院町に工場進出

薩摩川内市と立地協定

ワイテック

総合卸売業社・ヤマエ久野(出資者)社長、福岡市)の連結子会社で、住宅用建築資材販売等を行うワイテック(山口政寛社長、福岡市)が11日、薩摩川内市祁答院町に「さつまセンター」の工場進出にあたり、同市役所で立地協定を締結した。

同日は、薩摩川内市から森卓朗市長、企業側から柳川信やマエ久野(株)代表取締役会長、山口政寛(株)ワイテック代表取締役

9日に29人がそれぞれ参加し受検予定。型枠大工の実技検定は12日にあり、19人が受検した。

図面の仕上げも早く今回の1日できそうなど、受検者のレベルが高い」と話していた。

加工および住宅用建築資材の販売を行っている。今回は、県内および熊本県南部を商圏に生産拡大を図るために工場進出したもので、ヤマエ久野(株)が昨年10月に経営悪化により清算した旧北薩摩事業協同組合の土地、建物、製材等の設備を取得し、ワイテックが操業することになった。

工場名は、ワイテック「さつまセンター」。建設地は薩摩川内市祁答院町上手2904-4(敷地面積3万7135.02㎡)で、建物面積は7359㎡。4月をめどに機械設備などの点検

技建が安全祈願祭

山神 企業繁栄を祈る

(株)技建(桑木野芳明社長)は11日、薩摩川内市の太陽パレスで社員および協力会社「建友会」の会員ら約80人が参加して安全祈願祭(山神祭)と新年会を開き、今年1年の無事故無災害と企業繁栄を祈願した。

神事では、新田神社の宮司が安全を祈願する祝詞を読み上げた後、桑木野社長や来賓の小辻宣義、薩摩川内市議、東田昌之、建友会会長らが神前に玉ぐしを捧げ、今年1年間

引き続き行われた新年会では、桑木野社長が「昭和52年創業以来、皆様のご協力で今日を迎えられたことはうれしい限り。今年は「連帯」を合言葉に、みんなで一致協力して目標達成に向けて頑張ろう」と挨拶。

続いて、来賓を代表して外園勝蔵県議が「業界を取り巻く環境は厳しいが、知恵と情熱を発揮して地元発展に貢献していただきたい」と激励した。

和岸岸夫薩摩川内市議の乾杯の首領で宴に入り、参加者らは親睦を深めながら新たな1年のスタートを切った。

長年の融和に感謝

新たな門出を祝う

鹿児島設計協友会40周年記念式典



長年の功績に感謝し表彰状を贈る東條会長(右)
＝鹿児島市のパレスイン鹿児島で

鹿児島設計協友会創立40周年記念式典

鹿児島設計協友会創立40周年記念式典が15日、鹿児島市のパレスイン鹿

児島であり多くの会員が参加、長年お互いの融和に感謝するとともに、新たな門出を祝った。

最初に東條正博会長が「独身の時入会し3年前には結婚式を迎え、女房より長い期間を過ごさせてもらい感謝深い」と述べ、「素晴らしい『出会いの井戸』を掘った倉内前会長らに改めて感謝するとともに、50周年に向けてこの出会いを大切にしていきたい」と挨拶した。

続いて、県建築士事務所協会の大原達也会長が「厳しい時代だが融和をもち協力できることは素晴らしい」と挨拶。また、(株)鹿児島建設新聞の向江泰徳社長が「建築設計界は大きな変革期にあるが、いつの時代にも会員の和を基調に郷土鹿児島のまちづくりを推進し

たな門出を祝った。

この後、設立当初からの会員で倉内芳美氏(倉内建築設計事務所、3代目会長)、松葉瀬幸夫氏(松葉瀬建築設計事務所、2代目会長)、上山昭一郎氏(上山建築設計事務所)の3人と35年以上40年未満の会員の比良五男氏(南比良建築設計事務所)、川路利秋氏(南川路アルミ建材)の2人を含む5人に感謝状と記念品を贈り長年の功績を称えた。

同会は初代会長を務めた東條氏が「一匹狼の集まる会を作ろう」と呼び掛け昭和43年1月、7人の正会員と1人の賛助会員により設立され、ともに学び合い融和をモット

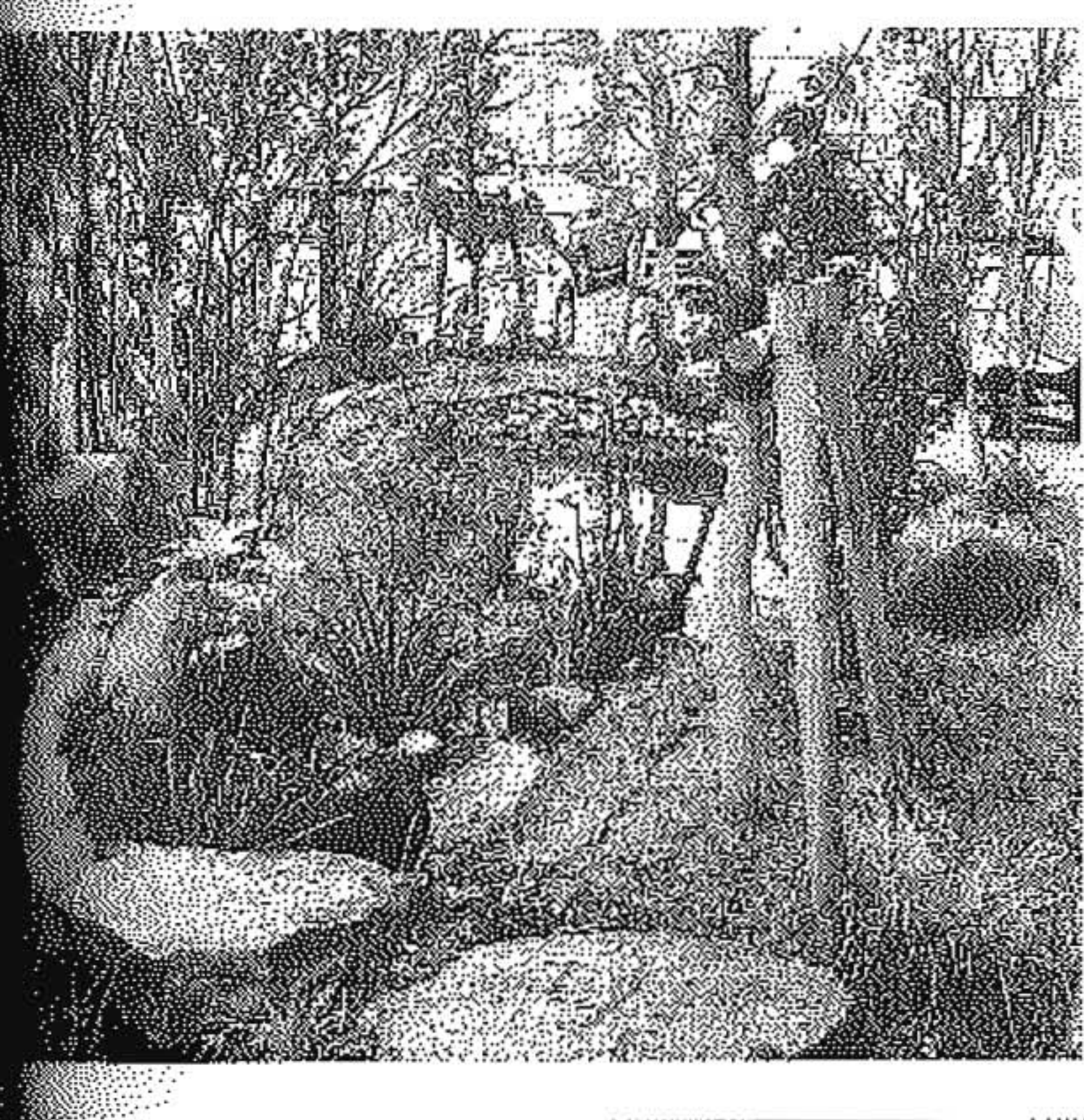
新和技術コンサルタント新社屋が完成

随所で環境に配慮

新和技術コンサルタント(株)の新社屋が鹿児島市の川内事業本部の新社屋が昨年10月末に完成し写真①。

建設コンサルタント・生態系調査等の専門企業らしく随所にわたって環境に配慮したシステムが施されている。

旧社屋は川内駅周辺地区の土地区画整理事業に伴い移転を余儀なくされ、旧社屋近くの薩摩川内市平佐町24-16に移転した。概要は敷地面積2884㎡、



このほか、機材庫の折屋根上に溜水(かんすい)設備不要のツルマンネングサを植栽し、駐車場の一部を緑化ブロックにするなどヒートアイランド対策にも貢献するなど環境に最大限配慮した施設となっている。

さらに、建設コンサルタントならびに生態系調査のノウハウを生かしたぽけっとピオト「ぽけび」写真②を敷地内に整備。薩摩川内市の山野に自生する木や植物を多く植栽し、さまざまな生き物と触れ合うことが出来る心和む空間を創出している。

坂元社長は「業界にとっては厳しい時代ではあるが、新社屋完成を機に従来の業務はもちろんのこと、ISO14001を生かして環境に配慮した業務を積極的に遂行し、地域に貢献していきたい」と抱負を語った。